SONY

4-289-035-**02**(1)

アクティブサブウーファー

SA-NA9ES

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。



電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

火災や感電の危険をさけるために、本機を水のかかる場所や湿気のある場所では使用しないで下さい。また、本機の上に花瓶などの水の入ったものを置かないで下さい。

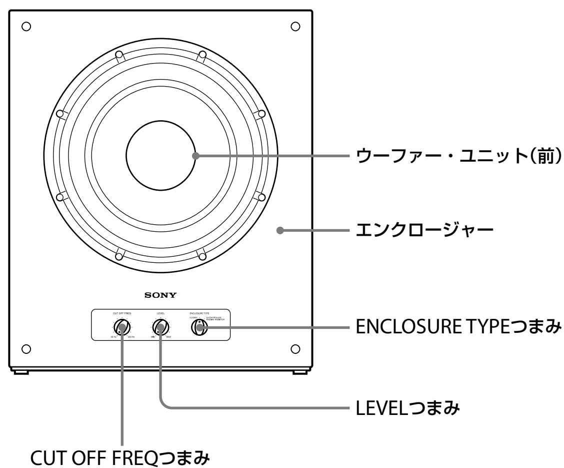
機器上に、例えば火のついたローソクのような、火炎源を置かないで下さい。

機器を本箱や組み込み式キャビネットのような通気が妨げられる狭いところに設置しないで下さい。

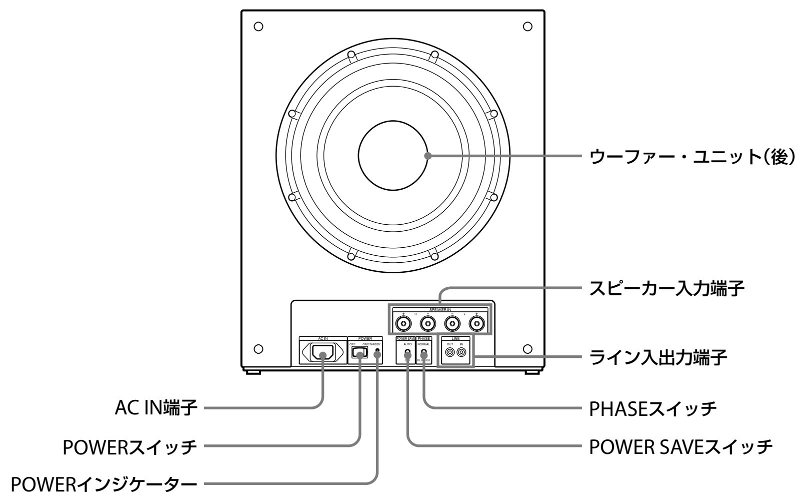
本機は容易に手が届くような電源コンセントに接続し、異常が生じた場合は速やかにコンセントから抜いて下さい。

通常、本体の電源ボタンを切っただけでは、完全に電源から切り離せません。

正面

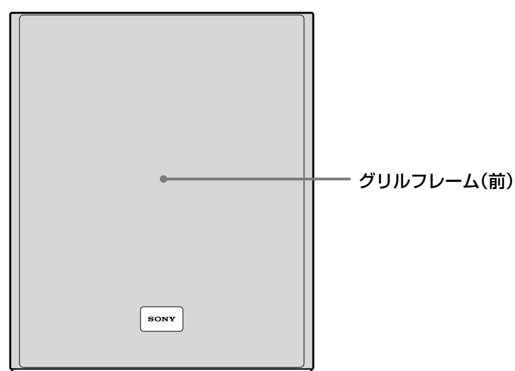


背面

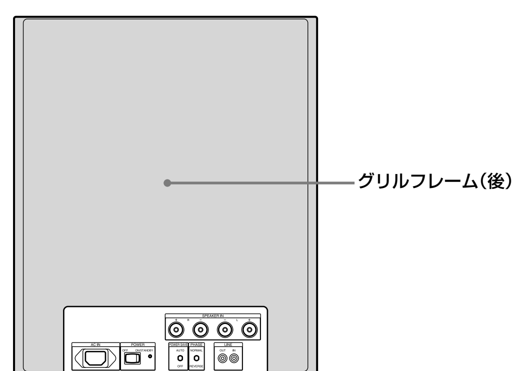


グリルフレーム
取り付け時*1

正面



背面



注意事項

- 各ユニットには触らないでください。
- エンクロージャーには天然木を使用しているため、色・木目がそれぞれ異なります。光の加減により見え方が異なる場合がありますが、傷ではありません。

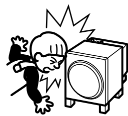
*1 付属のグリルフレームを取り付ける時は、向きに注意してください。取り付けの際は、ピンの上を押してしっかりと取り付けてください。グリルフレームが浮いた場合は押し込んでください。製品保護のため、スピーカーを使用しない場合は、グリルフレームを取り付けておくことをお勧めします。グリルフレームを取り付けた状態でも十分お楽しみ頂けますが、取り外すことにより、本来の性能を発揮します。グリルフレームを取り外す場合は、極端に変形させないように注意してください。

スピーカーの置きかた

人間の耳では、本機で再生される音がどこから聞こえてくるのか、その方向を感知しづらいです。したがって、本機をお好きな場所に設置してお使いいただけますが、フロントスピーカーの近くに設置することをおすすめします。しっかりした床面に設置すると不要な共振などが発生せず、よりよい重低音再生をお楽しみいただけます。
また、本機1台でも充分な重低音再生をお楽しみいただけますが、2台以上お使いいただくことも可能です。その場合はより効果的な重低音再生をお楽しみいただけます。

注意事項

- 本機は壁から30cm以上離してください。
- 本機の上に物をのせたり、腰掛けたりしないでください。
- 安全のために、水平で堅い床面に設置してください。
- 部屋の中央付近に本機を設置すると、重低域が極端に減少する場合があります。これは部屋の定在波の影響によるものです。このため、部屋の中央付近への設置を避けるか、定在波が起きにくいように本棚などを置いて部屋の平行面をなくすことをおすすめします。
- 本機の角でけがなどをしないように、お気をつけください。



- テレビなどの映像機器に接続されたコードを束ねたり折りたたんだ状態で本機の後部に配置しないでください。映像にノイズが出る場合があります。

次のような場所は避けてください。

- 温度の高いところ、直射日光の当たるところ
- ほこりの多いところ
- 湿気の多いところ
- キャッシュカード、定期券など、磁気を利用したカード類のそば
  スピーカー部のマグネットの磁気の影響でカードが使えなくなることがあります。
- テレビのそば
  スピーカーは防磁型ではありません。そのため、ブラウン管方式のテレビのそばで使うと、テレビ画面に色むらが起こります。色むらが起きた時は、いったんテレビの電源を切り、15 ～ 30分後に再びスイッチを入れてください。それでも色むらが残るときは、スピーカーをさらにテレビから離してください。
- 振動がプレーヤーに伝わるところ（ハウリング防止のため）

特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤などが塗られている床にスピーカーを置くと、床に変色、染みなどが残ることがあります。

接続するアンプを確認する

過大な音を出すと、スピーカーを破損することがありますので、過大入力にならないように、アンプの音量つまみの位置にご注意ください。

接続する

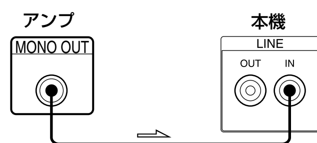
ライン入力端子またはスピーカー入力端子をアンプと接続します。
以下の出力端子のあるアンプと接続するときは、ライン入力端子にオーディオ接続コード（別売り）で接続します。
－ MONO OUT端子
－ MIX OUT端子
－ サブウーファー出力端子
－ スーパーウーファー出力端子
上記の出力端子のないアンプと接続するときは、スピーカー入力端子とアンプのスピーカー端子をスピーカーコード（別売り）で接続します。

接続についてのご注意

- 電源を必ず切ってから接続してください。
- 接続コードが足りない場合は、別売りのオーディオ接続コードをお買い求めください。
- プラグはしっかりと差し込んでください。不完全な接続は雑音の原因となります。

オーディオ接続コードで接続する

アンプのMONO OUT端子と本機のライン入力端子をオーディオ接続コード（別売り）で接続します。

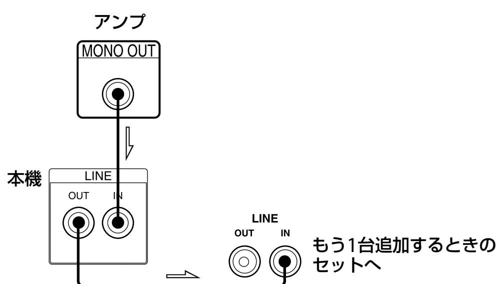


：信号の流れ

注意事項

アンプの出力レベルが低いと、充分な音量がえられないことがあります。その場合は、アンプのスピーカー端子と本機のスピーカー入力端子を直接つないでください。

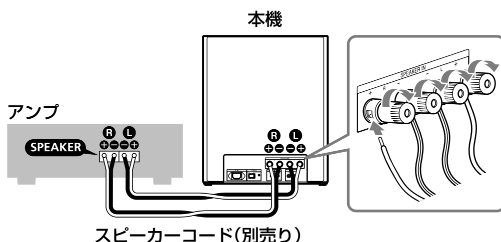
本機を2台以上使用する場合



：信号の流れ

スピーカーコードで接続する

右スピーカー端子はアンプの右スピーカー端子に、左スピーカー端子は左スピーカー端子につなぎます。
図のように接続してください。

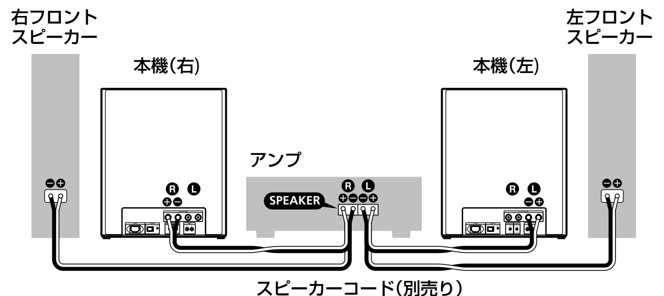


注意事項

各端子は、しっかりとお締めください。また、時間の経過とともに緩むことがありますので、定期的に締めることをお勧めします。

本機を２台以上使用する場合

本機を左右に配置し、本機（右）の右スピーカー端子はアンプの右スピーカー端子に、本機（左）の左スピーカー端子はアンプの左スピーカー端子につなぎます。
右フロントスピーカーのスピーカー端子はアンプの右スピーカー端子に、左フロントスピーカーのスピーカー端子はアンプの左スピーカー端子につなぎます。



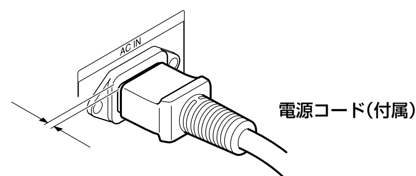
スピーカーコード（2本）を選定するときの条件

音声信号が高音質なまま出力されるように、左右のコード長さを、最小限の長さにそろえてください。コード端末は、次のいずれかで処理されたものを使ってください。

- コード端末の被覆を約10mmはがし、芯線（直径4.5mm未満）をむき出しにした状態
  芯線は、時間が経つと酸化することがあります。その場合は、むき直し・再結線すると、より良い音でお楽しみいただけます。
- Yラグ（Yラグ内径8mm以上、外径12mm未満）

電源コードをつなぐ

付属の電源コードを本機背面のAC IN端子につなぎ、電源コードのプラグを壁のコンセントにつなぎます。



本機後面に電源コードを奥まで差し込んでも、プラグと本機後面の間に数ミリの隙間ができますが、これで正しくつながれています。

接続についてのご注意

- 電源コードを接続するときは、壁のコンセントに直接つないでください。
- アンプのAC OUTLET端子は使用できません。
- 電源コードを、壁のコンセントにしっかりと差し込んでください。
- 電源コードを抜き差しするときは、本機の電源は必ず切ってください。

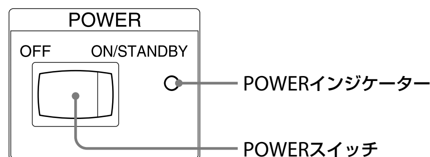
音を聞く

最初にアンプの音量を下げてください。音源の再生前に音量を最小にすることをおすすめします。

1 アンプの電源を入れて、聞きたい音源を選ぶ。

2 POWERスイッチを押して本機の電源を入れる。

POWERインジケーターが緑色に点灯します。

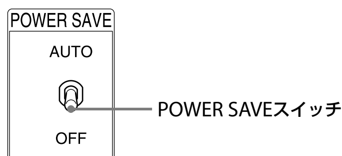


3 聞きたい音源の演奏を始める。

アンプの音量を調整して、フロントスピーカーでお好みの音量に設定してください。
接続されるアンプの出力がひずむと本機からの出力も同じようにひずみます。

電源の入/切を自動的にする
ー オートパワーオン/オフ機能

本機の電源が入っているとき（POWERインジケーターが緑色に点灯）、信号が入力されない状態が数分間続くと、パワーセーブ状態になります（POWERインジケーターが赤色に点灯）。このとき再び信号が入力されると、本機の電源は自動的に「入」になります。
この機能を使いたくないときは、本機後面のPOWER SAVEスイッチをOFFにしてください。



注意事項

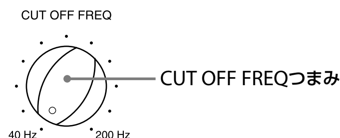
- アンプのトーンコントロール（BASS、TREBLEなど）やイコライザーを大出力でご使用になったり、市販のテストディスクに入っている20Hz ～ 50Hzのサイン波や特殊な音（電子楽器の低音、レコードプレーヤーの針先のショック音、低音が異常に強調された音など）を連続して大出力で加えることは、絶対に行なわないでください。スピーカーの破損の原因となることがあります。
  また、低音が異常に強調された特殊ディスクでは、本来の音以外に異音を発する場合があります。これは、スピーカーユニット自身の限界を超えた「バタ付き」現象です。そのようなときは、音量を下げてご使用ください。
- アンプの音量を極端に小さくしていると、オートパワーオン/オフ機能が働き、パワーセーブ状態になることがあります。

音を調節する

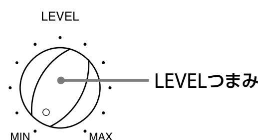
お手持ちのフロントスピーカーに合わせてサブウーファーの音を調節することができます。低音を補強することで、音楽や映画に迫力や臨場感が生まれます。

1 カットする周波数を調節する。

CUT OFF FREQつまみで調節します。お手持ちのフロントスピーカーの大きさに応じて調節してください。大きいスピーカーに合わせるにはつまみを左に回し、小さいスピーカーに合わせるにはつまみを右に回します。

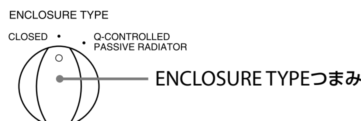


2 ウーファーの音量を調節する。



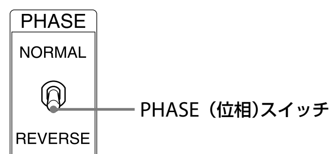
LEVELつまみで調節します。つまみを徐々に右に回し、サブウーファーがないときより、若干低音が聞こえるくらいに合わせます。
つまみを右に回す（MAX側）と音量が大きくなり、左に回す（MIN側）と小さくなります。

3 ENCLOSURE TYPEを設定する。



お好みで設定してください。
CLOSEDを選択するとウーファーユニット（前）（後）が駆動します。タイトな低音が出力されます。
Q-CONTROLLED PASSIVE RADIATORを選択するとウーファーユニット（前）が駆動し、ウーファーユニット（後）はパッシブラジエーターとして機能します。ゆったりとした深い低音が出力されます。
ENCLOSURE TYPEの設定を変更すると、音色が変化します。また、音量が異なって感じる場合があります。
設定を変更したら、カットする周波数とウーファーの音量をもう一度調整してください。

4 位相極性を調整する。



PHASEスイッチで切り換えます。
いつも聞いているお好みの曲や映画を再生してください。低音の入った、男性ボーカルの曲や男性のセリフなどが適しています。アンプ（フロントスピーカー）の音量は、普段聞いているくらいの大きさにしておきます。
男性のボーカルやセリフなどのもっとも低音部分が聞こえる極性を選んでください。

5 手順1～4を繰り返す。

お好みに応じて微調節してください。
一度調節すれば、ウーファーの音量は、アンプの音量つまみと連動してコントロールされます。アンプの音量に合わせて再度調節する必要はありません。

注意事項

- ウーファーの音量の上げすぎにご注意ください。上げすぎると低音が軽くなり、力強さがなくなります。さらに上げると音源にないノイズが出ることがあります。
- フロントスピーカーの種類や本機の設置場所、CUT OFF FREQつまみの位置によっては、PHASEスイッチで「NORMAL」または「REVERSE」を選んだ方が低音再生が良好になる場合があります。また低音だけでなく、全帯域にわたって音の広がりや印象が変化し、音場感に影響します。お好みに応じて切り換えてください。

使用上のご注意

付属の電源コードセットについて

付属の電源コードセットは、本機専用です。他の電気機器では使用できません。

電源について

家庭用電源コンセント(AC100V)につないでご使用ください。国内用ですので海外ではご使用になれません。

電源コードについて

電源コードを無理に曲げたり、上に重いものをのせたりしないでください。コードに傷がついて火災や感電の原因になります。傷がついたコードは使わないでください。また、電源コードを抜くときは、コードを引っ張らずに、必ずプラグを持って抜いてください。

電源コードをコンセントから抜く場合

電源コードをコンセントから抜くときはスイッチをOFFにしてから抜いてください。

アンプやプログラムソースの電源のON/OFF、スイッチの切り換え時には

アンプの音量を最小にしてください。

留守にするときは

ご旅行などで長い間ご使用にならないときは、必ず電源コードをコンセントから抜いてください。

ウーファーの破損を防ぐために

- 大きな音を出しすぎると、音質を損ねたり、スピーカーが破損する恐れがありますので、LEVEL（音量）つまみの位置にご注意ください。
- スピーカーユニット、エンクロージャーは分解したり改造したりしないでください。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。
窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。



エンクロージャーのお手入れとご注意

- 中性洗剤やシンナー、ベンジン、アルコールなどは、表面の仕上げをいためますので、使わないでください。
- エンクロージャーのよい状態を永く保つには、いきなり強く拭かず、柔らかい筆か羽根ぼうきで塵を払い落としてから、柔らかい布で乾拭きしてください。(タワシやスポンジなどは絶対に使用しないでください。)
- 指紋や油じみなどは息を吹きかけ、柔らかい布で拭き取ってください。
- 汚れがひどいときのみ、水またはぬるま湯の石鹸水に浸して固く絞った柔らかい布で拭き取ってください。
- エンクロージャーに傷を付けないようにご注意ください。

音切れについて

長い時間、または瞬時に大出力でご使用になると保護回路が働き、音が途切れる場合があります。そのときは一度電源を切り再度電源を入れてください。リセットされ、音が出ます。

回路の断線を防ぐために

次のような信号を連続して入れないでください。

- FM放送の局間ノイズ
- 電子楽器の連続的な高い周波数の信号
- テープデッキで早送り時に出る大出力で周波数の高い信号

ハウリングについて

本機をレコードプレーヤーのそばに置くと、「ポワーン」というハウリング現象が起こることがあります。その時は、レコードプレーヤーと本機を離すか、本機の音量を下げてください。また、まれにカセットデッキやコンパクトディスクプレーヤー、レーザーディスクプレーヤーでもハウリング現象により、音がひずんだり、画像が乱れることがあります。その時も、本機との距離を離すか、音量を下げてお使いください。

故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいときは、修理に出す前にもう1度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口にお問い合わせください。

音が出ない

- ➔ オーディオ接続コードのプラグをしっかり差し込む。
- ➔ LEVELつまみがMINに近くなっているので、右へ回して音量をあげる。

急に音が出なくなった

- ➔ スピーカーコードがショートしているので確実に接続されているか確認する。
- ➔ 入力信号が大きすぎるとリミッターが作動し、音が出なくなることがあります(POWERインジケーターが赤色に点滅)。いったん電源を切り、もう一度電源を入れてください。

音がひずむ

- ➔ 入力信号が適正でない。
- ➔ 入力信号が大きすぎる。

ハム音や雑音が出る

- ➔ レコードプレーヤーのアース線をしっかり接続する。
- ➔ オーディオ接続コード（別売り）およびスピーカーコード（別売り）と端子の接続が不充分なので、充分に差し込む。
- ➔ テレビからの雑音を拾っているので、テレビとオーディオ機器とを充分に離すか、テレビの電源をOFFにする。
- ➔ スピーカーコードで接続している場合、オーディオ接続コードで、本機のライン入力端子とアンプの未使用の入力端子を接続すると、改善することがあります。

主な仕様

システム

形式	アクティブサブウーファー
使用スピーカー	250mmコーン型ウーファー（2）
実用最大出力（JEITA*）	500 W
再生周波数帯域	20 Hz ~ 200 Hz（ENCLOSURE TYPE ： CLOSED）
ハイカット周波数	40 Hz ~ 200 Hz
フェーズ切り換え	NORMAL, REVERSE
エンクロージャータイプ	CLOSED, Q-CONTROLLED PASSIVE RADIATOR
オートパワーオン/オフ切り換え	ON, OFF

入力端子

ライン	ライン入力（ピンジャック）
スピーカー	スピーカー入力（ターミナル）

出力端子

ライン	ライン出力（ピンジャック）

電源、その他

電源	AC 100 V, 50/60 Hz
消費電力	100 W
消費電力（パワーセーブ状態時）	0.5W
最大外形寸法	約375 × 450 × 495 mm（幅/高さ/奥行き）
質量	約36 kg
付属品	電源コード（1） 取扱説明書（1） ソニーご相談窓口のご案内（1） 保証書（1） 安全のために（1）

本機は「JIS C 61000-3-2 適合品」です。

* JEITA（電子情報技術産業協会）の規格による測定値です。

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

保証書とアフターサービス

保証書

この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げ店でお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。 保証期間はお買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまず確認を

この説明書を、もう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合が悪いときはサービスへ

お買い上げ店または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。 詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では音響機器の補修用性能部品（部品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後8年間保有しています。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型名： SA-NA9ES
- 故障の状態： できるだけ詳しく
- 購入年月日

4-289-035-**02**(1)



よくあるお問い合わせ、解決方法などは
ホームページをご活用ください。 **http://www.sony.co.jp/support**

使い方相談窓口
フリーダイヤル················0120-333-020
携帯電話·PHS·一部のIP電話·· 0466-31-2511

修理相談窓口
フリーダイヤル················0120-222-330
携帯電話·PHS·一部のIP電話·· 0466-31-2531
※取扱説明書·リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

左記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に
「306」＋「＃」
を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

FAX（共通） 0120-333-389 **受付時間** 月〜金:9:00〜20:00 土·日·祝日:9:00〜17:00

ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

Printed in Japan